

重要文化財「山水図」(拙宗筆)の保存修復事業レポート ③

2024年6月に修復事業を開始した重要文化財「山水図」(拙宗筆)について、進捗状況をご報告します。

①増裏打ちおよび折れ伏せ入れを終えた本紙について、一次補彩を施した状態を確認し、付け直し後の補彩の深度を踏まえた色の方向性について協議しました。

また、補彩の状態確認にあたっては、付け直し後の補彩を想定し、実際に使用する裂類をあてた状態で検討を行いました。



▲増裏打ち



▲折れ伏せ入れ

②補彩が施された箇所のうち、画面向かって左上部・中央左側・右下端については、本紙と比較して補紙の色味が特に明るく見えることが確認されました。ただし、裂類をあてた状態では全体の調和が概ね保たれていることから、全体的な色の方向性についてはこのまま進めることになりました。

画面向かって左側の賛、一行目下部にみられる欠失部の補彩深度を基準とし、画面中央左側に位置する台形部分など、欠失部の面積が大きい補紙については本紙とのなじみをより整えるため、補彩の調整を行うこととなりました。

◀一次補彩を施した状態。



本作品は2024年4月から住友財団の文化財保存修復事業助成を受けて、本格的な修理に着手しています。完成は2027年3月を予定しておりますので、続報をお待ちください。